

久保憂希也の

## 税金を考える

第3回

## 税務署側から考察する税務調査 (3)

●久保 憂希也 (元国税調査官。現在は節税請負人として活躍中)

## ◆ はじめに

前回は、「税務調査に対する調査官の心理」について書かせていただきました。今回は、「税務調査前の手法」について書かせていただきます。



## 1 税務調査の前に調査官がやること

税務調査の対象者が税務署内部で決まったところで、いきなり税務調査を実施することはほとんどないと言っていいでしょう。調査官もバカではありません。事前に調べられることは、できる限り調べてから税務調査を実施するのです。

それでは具体的に、税務調査の前に調査官は何をやっていくのでしょうか？

## 2 基本は準備調査

税務調査の前には、調査に対する準備があります。これは準備調査と呼ばれています。準備調査は業種によってやるべきことは若干相違しますが、調査前にやるべきことの基本と言えるでしょう。

準備調査においては、提出されている確定申告書の精査から、取引関係の把握、税務署が他部門で保有する資料との突合、資産の把握までが最低限の作業です。家族状況の把握（家族に収入があればその確定申告書の精査）から、実際に出かけて住居の概観まで把握することもあります。

また調査対象者が不動産業の場合は、事前に保有する不動産の登記簿などを取得することが通常です。また飲食店であれば、昼食時間帯に店舗の前で客数を数えることもあります。

## 3 一番恐ろしい内偵調査

飲食店などの場合に実施するのが内偵調査と呼ばれる

事前調査です。準備調査の内容を頭に入れた調査官が、一般客として入店するのです。

内偵調査では調査官が、席数から客数、メニューの単価、他の客が注文しているメニューまでを、通常の客と同じように飲食しながらチェックするのです。情報量が多い場合は覚えきれないため、トイレに入ってメモを取ることもあります。

## 4 伝票に印を・・・

内偵調査では伝票が重要ポイントになります。お客様の会計をするのに必要な伝票ですが、会計が終われば一部を破棄している悪質な人がいるのです。つまり伝票で売上を計算している場合は、売上の除外をしているわけです。これを調べるために、伝票にチェックを入れることもあります。調査官が飲食した際に、バレないように伝票にボールペンなどで印をつけておくのです。こうすれば実際に税務調査を実施した際に、伝票が破棄されたかどうかを確認できるのです。

## 5 「お会計をお願いします」と言ってからが勝負

内偵調査で最も調査官が重要視するのが、払ったお金の処理される方法です。

レジをきちんと打ってからお金を入れているかを見ています。レジを打たずに現金箱のごとくレジを使用している店が多いのが現実です。それでは売上の正確な把握が難しくなります。

またレジペーパーが回っているかどうかもチェックしています。レジペーパーに記録が残っていれば、重要な証拠となる可能性が高いからです。